

清原町長説明	
日時・ 会場	<p>令和元年11月23日(土・祝)</p> <p>第1部 10時00分～12時00分 まほろばホール 小ホール</p> <p>第2部 13時30分～15時30分 第一小学校 多目的ホール</p>
発言内容	<p>『河合愛AI構想(かわいあい こうそう)の説明』</p> <p>《資料1ページ》</p> <p>就任して半年あまり経過しました。町の情勢を見ていく中で、河合町のあるべき姿、目指すべき姿は“人に優しい 人情あふれる町 温かい町”だと考えています。</p> <p>河合には「愛」があります。英語にすると「KAWAI」となり、最後に“AI(愛)”があります。いま注目されている人工知能 AI(Artificial Intelligence)も念頭においています。</p> <p>先日、新たな取り組みとして実施しました、若手職員によるコンシェルジュ研修に参加した職員と意見交換会を行いました。その中で、町外から来ている職員が「河合町は、職員のみならず町民の皆さんが優しい」と語ってくれました。</p> <p>また、買い物難民対策として、移動スーパー「とくし丸」の運行にも協力しましたが、その販売員が「河合町の方は、本当に温かい」と喜んでくれていました。</p> <p>すでに愛であふれている町。それが河合町です。</p> <p>そこで、これまでの町民の夢や希望を取り入れた「夢ビジョン」を礎にして、新たな発想で夢の実現を実感できる「河合愛 AI 構想」を掲げました。</p> <p>「河合愛 AI 構想」は、河合町の豊富な資産(オリジナリティ)を再認識し、更にそれらを活用し新たな資産(オリジナリティ)を形成していくものです。そうすることで、魅力の向上と人口減少対策を成し遂げ、健全財政に繋げていくことができると考えています。</p> <p>「河合愛 AI 構想」とは「夢を語り 愛を集め 知恵を出し合うもの」で、あくまでも町民のみなさんが主役です。</p> <p>まず、第一弾として次の三つの施策を軸にしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリティマネジメント(公共施設再編)</li> <li>・教育のまち</li> <li>・子育て環境</li> </ul> <p>今日ご参加の皆様とともに、三つの柱それぞれについての再発見・再認識をし、それらを再構築することで「地域資源のポテンシャル・魅力UP」に繋がると考えています。</p> <p>それが、「新たな満足」さらには「明日への期待」となり人口安定・定住促進が実現すると考えています。</p>

そうなると、経済基盤の安定が期待でき健全財政へと転換、新たな施策の導入という好循環が生まれると考えています。

《資料 2 ページ》

■ファシリティマネジメント（公共施設再編）

公共施設は“町民資産”です。皆さまの大切な“財産”を、リファイン（洗練する）、再活性して、皆さまの日々の暮らしに役立てたいと考えています。皆さまが求める「便利」「安心・安全」「快適」「幸福」のために最大限に活かすという発想を原点に置いています。

ファシリティマネジメント（公共施設再編）とは、今ある施設の価値、魅力、機能を、新たなテーマで組み立て直し、磨き直し、適度なお色直しも施して、町民一人ひとりの生涯にわたる「幸せ・豊かさ・満足感」につなげる取り組みです。経済的な波及効果も視野に入れています。

そのために、

- ・複合的な機能を備えることはできないか？
- ・民間活力の導入はできないか？

といった視点で考えていきたいです。

《資料 3 ページ》

●河合第三小学校跡地を暮らしになくてはならない拠点として活用

例えば、既存施設を活かしながら、地域の中での役割を見直し、「防災・減災」など、今日的な課題解決につながる機能も付加したいです。

キーワードは、方向性が曖昧になりがちな“多目的”ではなく、使命、役割を明快にした“複合機能”を持たせたいです。結果的に、町民の「夢・愛・知恵」を集めて“多目的化”させるといった柔軟性も持たせます。

施設の整備は、“誰が・何のために・どのように使うのか”という、使用時の役割分担、使用・活用シーンをしっかりイメージして議論したいです。

「暮らしになくてはならない拠点づくり」がキーワードです。各校舎棟・体育館をリノベーションし、公民館機能や防災拠点としても利用できる施設として再整備する。と言ったことが考えられます。

●池部駅前（町）から馬見丘陵公園（県）につながるエリアの魅力アップ整備

河合町のひとつの“顔”を描く、人と人の“出会いの場”、町内外の人たちが“交わる場”を創るという発想で取り組むプロジェクトです。

- ・池部駅という町の“ゲートウェイ”
- ・馬見丘陵公園という町の“庭・お花畑”
- ・役場という町の“情報発信ステーション”

その他の新たな機能も織り込みながら、いつ訪れても新鮮な発見があり、春夏秋冬、四季折々の幸せがある。そしてまた、行きたくなる。町の誇り、シンボルゾーンとして、心躍るワクワク感を醸成、構築していきたいです。

これを奈良県と連携して事業化する、いわゆる「まちづくり包括協定」締結を前提に、より大きな視点から進めていきたいと考えています。

#### ●未来志向の“まちづくり改革”という発想で佐味田川駅前を整備

駅＝ステーションは、その語源から“ステージに”つながる言葉です。佐味田川駅前を“暮らしのステージ”と位置づけて、そのステージにふさわしい機能、利便性を集約し、暮らしが輝く「集い」「ふれあい」「賑わい」「支えあい」といった合言葉を掲げて、新しい角度からスポットライトを当てていきます。

民間の活力も上手に取り入れ、“未来志向”の夢のあるまちづくり、躍動感のあるまちづくりを進めたいです。財政負担の大きいハード整備は最小限に抑えながら、知恵と覚悟を持って、住民サービス向上、財政健全化につなげる“まちづくり改革”の第一弾に考えています。

“まちづくり改革”は町民の「夢・愛・知恵」の上に成り立つと考えています。ぜひ皆さまの協力をお願いいたします。

4ページにそれぞれの位置関係を示した図面を添付しています。

《資料2ページに戻る》

#### ■教育のまち

#### ●小中連携教育

第一、第二の小中学校が隣接するという、河合町独特の立地メリットも最大限に活かしながら、河合だからできる、河合だけにできる“河合町方式”の「小中連携教育」を目指します。

かつて学校は隣接しているものの、小・中お互い教師の顔も知らない「近くて、遠い」関係でした。これを私が校長の時、「近くて、近い」学校になるため、教師間の合同研修や授業研究、合同の避難訓練、図書室の共同利用、更には小学校の校内音楽会に中学校の吹奏楽部が参加、逆に中学校の学校行事に小学生が参加する等の取り組みを実施していました。

9年間、子ども達の成長を見守る、こうした取り組みは、とても大切な視点だと考えています。

「小中連携教育」のポイントは、6年+3年=計9年という時間軸、時の流れを、「児童・生徒」「保護者」「学校・教師」「教育委員会」「町長」が共有するということです。共に「教」えあい、「育」ちあい、理想の「小中連携」の姿を、共有する時間の中で追求し、みんなが手を携えて成果を積み上げていくことが重要です。

「小中連携」は、“人と人の連携教育”でもあります。いくつかの“とっかかり”施策は、まず、実施するにせよ、1・2の3で「パッと、来年度から始めます！」という定型に嵌め込むような既製のスタイルがあるわけではありません。

まず、「児童・生徒」「保護者」「学校・教師」「教育委員会」「町長」、それぞれの間に、小・中学校の間にも、溝はないか、壁はないかの点検から始めます。この組織と組織、人と人の連携がなければ、風通しの良い関係がなければ、9年間の「小中連携教育」は絵に描いた餅になります。「餅は、力を合わせて、みんなでつこう！」という意識がなくてはいけません。

現在、全国各地の教育現場で起きている、いじめ、不登校など、さまざまな問題も検証し、地道に、実直に、心のこもった現実的な目標を掲げて取り組んでいきます。大人が子どもたちに教えられる、子どもたちに育ててもらおうという、謙虚な姿勢も大切にしていきます。

学校は、子どもたちが“学ぶ場”であり、教員の“職場”でもあるという今日的な視点からも目をそらしません。保護者を含めた周辺地域の人たちが“交わる場”、地域の人に“支えていただく場”という発想も大切にしたいです。

学校教育と地域社会、コミュニティは、切っても切れない関係にありますので、一体感を高めるべきです。すべてにおいて、「子どもたちのために…」という目線を大前提に置きながら進めていきます。

河合だからできる、河合だけにできる“河合町モデル”の「小中連携教育」をみんなで考え、協働していくことは、当然のことながら、地域のチカラも必要となります。例えば体育協会（体育事業）、文化協会（文化事業）、商工会（職場体験）、シルバー人材センター（多世代交流）、たんぼの楽耕（農業体験）などとの連携も考えていきます。

#### ●英語教育

例えばイングリッシュ・エデュケーション・プログラムは次の3つを目的として実施しました。

- ・小学生から英語を楽しく学び、今後の学習に繋がるための支援
- ・英語を英語のまま理解するための機会の提供
- ・英語助手ALTや地域人材の活用

#### ●小中学校にICT教育

- ・従来の「読む」「書く」の2つのスキルから、「聞く」「話す」を加えた4つのスキルをバランスよく養う教育の実施
- ・教育に向けた環境の整備
- ・教職員の技術向上のため、講習会の実施および教職員間の交流

#### ●西大和学園との連携

西大和学園グループとの連携という観点から、「教育」「保育」分野を持つ、白鳳短期大学（王寺町）との連携も視野に入りたいです。

また、子どもたちの「夢・愛・知恵」をまちづくりに活かす手法も考えていきたいです。

### ■子育て環境

#### ●子育て・子育て支援

子どもの成長は子どもが主役です。それを助け、支え、後押しし、温かく見守る環境づくりをしていきます。“社会との関係性”という観点から、大きく3つの“舞台”があると考えています。

ひとつ目は、基本となる家庭です。2つ目は、地域社会です。3つめは、認定こども園を含む、各種の機関、施設です。ある意味で、防災、災害対策で取り上げられる「自助」「共助」「公助」の3つのあり方と共通しています。「家庭」「地域」「機関」の三位一体の良好な連携、適切な補完関係の整備が、今、望まれているのではないのでしょうか。それぞれが、出来ることを出来る限り、バランスを取りながら、みんなが、やりやすい環境で最善を尽くしていく、頼り過ぎない、押し付けない。これも、河合方式で進めていきたいです。

そして、行政の役割としては次の3つの視点、複眼で見る＝オール河合町方式で取り組みたいです。

#### ・「個＝それぞれの家族」のためにやるべきこと

個々、家族、家庭それぞれのカタチ、異なる子育て事情への支援策です。子育てしやすい条件整備、仕組みづくり。経済面、人的、情報提供、ハード面の整備も必要になってきます。補助、給付等に関しては、全国基準と比べてどこまでやれるか、やるかを検討していきます。

#### ・「地域社会、コミュニティ」のためにやるべきこと

子どもが、子育て家族が、地域社会、コミュニティとつながることだと思っています。多世代が交流しながら子育て家族を支え、見守る環境づくりです。“子育て”という、子ども目線の環境整備になります。子どもにとって、あらゆる大人の存在が、“子育て環境”という視点につながっていきます。

#### ・各種施設での「集団生活」のためにやるべきこと

子どもたちが「いきいき」「にこにこ」「わくわく」「きらきら」してもらいたい。

認定こども園は、豊かな自然環境の中で、“ふるさと”という得がたい“宝物”を記憶する“舞台”となります。馬見丘陵公園にも隣接し、風、匂い、色の変化、四季の移ろいを実感できる、満喫できる環境があります。町のシンボルゾーンとなる場所で、いろいろな大人たち、お友だちと同じ時間を過ごし、“多様性”という現代社会に不可欠なテーマも感じ取ることができれば、それも素晴らしいことです。

“子育ての場＝未来への可能性を広げる成長の舞台”であり、日々が未来につながる“発見、感動、思い出づくりの場”であることも強調したいです。

また、妊娠期から子育て期にわたって総合的な相談や支援をワンストップで実施する「子育て世代包括支援センター」を来年度中に開設する予定です。

以上、「河合愛 AI 構想」について述べさせていただきました。

皆さんから建設的なご意見をいただきながら、意見交換できれば幸いです。